



「皆保険体制の持続可能性と開業医医療 —皆保険成功の秘訣は 『開業医的医療』にあり」

■ 基調講演

「日本の医師・歯科医師・保険医の運動の歴史と課題」

住江 憲勇氏（全国保険医団体連合会会長）

宇佐美 宏氏（全国保険医団体連合会歯科代表）

■ 各分科会からの報告

■ 討論

少子高齢化社会の中で、日本の医療は変革を求められている。その中心的な課題は医療の質の向上（安全性、有効性、患者中心性、適時性、効率性、公正性）である。これを実現するためには医療制度の改革が必要である。これは二つの柱からなる。憲法25条に基づく医療保障制度の実現と、医療提供体制の再構築である。

国民皆保険制度を実現してきた開業医制度は、今後の医療提供体制改革の基礎をなすものであることをまず確認したい。国民皆保険制度の堅持については異論がないが、どのような未来を描くかについては国民的合意があるわけではなく、政策的な分岐点になっているのが現状である。厚生労働省の保健医療2035はその官僚版である。安倍政権がすすめる経済財政一体改革路線は、選択と集中を通じて医療版シャッター通り商店街を生み出そうとしている。これは国民皆保険制度の空洞化にほかならない。

これに対して私たちは、開業医の視点から開業医的医療2035を打ち出したい。地域住民に最も近いのが開業医であるとすれば、私たちの発信は地域住民目線に近い現実性のある医療改革の提起になるのではないか。例えば新専門医制度で注目されている総合診療専門医についていえば、基本領域ではなくサブスペシャル後に完成される医師としての完熟期に対応する専門医として想定することなどの発想が大事なのではないかというようなことである。開業医的医療のイメージが豊かになるような未来志向の議論をお願いしたい。